

伊勢市廃棄物減量等推進審議会（令和7年度第1回）審議結果等

○ 日時：令和7年7月25日（金）15時から

○ 場所：伊勢市役所本庁舎 東館5-3会議室

- 委員 萩原 浩司（学識経験者：皇學館大学）
上野 早苗（市民：公募）
安井 正和（事業者等：株式会社ぎゅーとら）
北岡 孝裕（地域住民組織：伊勢市総連合自治会）
竜田 和代（地域住民組織：伊勢市女性団体連絡協議会）
坂村 春美（地域住民組織：伊勢市食生活改善推進協議会）
北前 尚紀（再生資源事業者：株式会社 幸伸）
瀬川 嘉雄（関係行政機関：三重県南勢志摩地域活性化局環境室）
坂本 進（関係行政機関：伊勢広域環境組合）

【欠席】

- 平島 円（学識経験者：三重大学）
酒徳 慎吾（事業者等：株式会社 らとら）

事務局

- 大西 隆（環境生活部長）、林 歩（ごみ減量課長）、
山中 操（ごみ減量課指導係長）、出口 昌司（ごみ減量推進係主査）、
佐波 聖樹（ごみ減量推進係主事）

○ 審議結果等

事項書に記載の報告及び審議事項に関する事務局からの説明に対し、以下のとおり質疑応答及び審議が行われた。

<報告> ●報告第1号 令和6年度 ごみ排出量実績（速報値）について
【資料1-1、1-2】

- | | |
|--------|---|
| （委員1） | 自治会活動のうち子ども会において廃品回収を実施している。活動の中で新聞・雑誌類の回収量は減少している。家庭で新聞を使い、ごみとして捨てたなどから、新聞等が廃品回収で出なくなったといったことを把握しているか？ |
| （事務局1） | 紙類の回収量は集団回収については活動の低迷もあり、減少傾向である。家庭から出る紙類は、スーパーなどの民間事業者も回収しており、そちらに出されている分が増えてきていることから、 |

	<p>集団回収等で減少しているのではと思われる。</p>
(委員1)	<p>インターネットの普及により新聞をとる方や雑誌を購入する方が減ってきている。そのような状況も考慮してもらえればよいと思う。</p>
(委員2)	<p>民間事業者が回収している分については、民間事業者が直接処分しており、その分は回収量に含まれていないのか。</p>
(事務局1)	<p>お見込のとおりで、市は民間事業者の回収量は把握していない。</p>
(委員2)	<p>把握している回収量は減少しているが、市全体としては減少しているとは限らないのではないかと。</p>
(委員3)	<p>ごみ減量課の市民に対する啓発は効果が出ていると思われる。ごみ量の減少に関して率としてはわずかであっても、量としてみたときは多くの量が減少している。</p>
(委員4)	<p>ごみ量について、わずかな減少率でも毎年続けば膨大な量の減少につながる。学生をみていると雑誌を見ず、スマートフォンなどで本を読むようになっている。若者のライフスタイルが変わってきている。</p>
(事務局1)	<p>参考までに資源物の3割近くは紙類であり、影響の大きい資源物である。</p>
(委員5)	<p>株ぎゅーとらでの資源物回収量について、紙類、缶が全体的に減少してきている。トレイなどの容器包装は容器自体の重さが軽くなっている。現状として、市民の方のリサイクルは進んでいると思われる。</p>
(委員3)	<p>スーパーに出される資源物は洗ってあり、きれいな状態か？</p>
(事務局1)	<p>ペットボトル、かん、牛乳パック、トレイはほぼきれいな状態を出されている。ただペットボトルについては、一定数汚れているものもあると聞いているが、きれいにして出す意識は高いと思う。きれいにしてもらえるとリサイクルもしやすい。</p>
(委員6)	<p>市民のリユースの意識も向上していると思われる。気軽にできるリユースのシステムが少しずつ広がってきており、それを若い世代が気軽に利用してきていることも、燃えるごみの減少に影響していると思う。</p>
(委員4)	<p>通信販売、ネット販売が増えており、ダンボール類の使用量が増えていると思われる。</p>
(委員7)	<p>紙類の回収量について、令和4年度と令和5年度を比較した場合、旧伊勢市地区では新聞△32%、雑誌△4%、ダンボール△6%であり、旧3町では新聞△20%、雑誌△12%、ダンボール△8%であった。ダンボールは比較的減少していない状況。ダンボールはリサイクル率が高く、ダンボールからダンボールにな</p>

る。一般的にはダンボールは回収率 95%を超える、利用率 90%である。古紙全般では回収率は 82%であり、世界的にみて日本は回収率が高いが、もっと回収率が高い国があるので、より資源化していくことが大切である。

(委員 3) 古紙は日本の中で再生されているのか。

(委員 7) 古紙は以前、日本での需要以外は主に中国に輸出していたが、中国の政策により輸入しなくなり、日本における古紙のストックが増え、古紙の価格が落ちた。現在は、受け入れ先を日本の企業が出資をして作り、そちらで処理をしている。

●報告第 2 号 令和 7 年度 ごみ排出状況 (速報値) について
【資料 2-1、2-2】

(委員 4) 資源物のうち資源びん、缶・金属、陶磁器類が減っている。主観ではあるが、伊勢市の人口構成のうち若い世代の割合が少なくなっていること。若い世代はびんや缶の製品を日常的に購入しなくなっている。飲料はペットボトル、食器は陶磁器でなくプラスチック製品といったものであり、生活スタイルが変わってきている。単純な人口減少だけでなく、生活スタイルの変化により出される資源物の減少に影響しているのではないかと。それらをデータで根拠づけでき、よい影響を与えるライフスタイルの変化であれば、その変化を後押しするような啓発、取り組みを検討していただきたい。

(委員 2) 粗大ごみに関して、ダウンの布団をリサイクルできるものとして回収しているが、近年、ダウンの割合が少なくても回収できるようになっている。もっと周知してリサイクルを進めてはどうか。粗大ごみを集めて捨てるだけでなく、使えるもののリユースを進めてほしい。使えそうなものを再利用するための仕組みを検討していただきたい。また、粗大ごみはただ捨てるのではなく、再利用を考えるよう自治会への案内などで啓発を進めていただきたい。

(事務局 1) 情報発信、自治会等への周知の方法を検討していく。現在、自治会の粗大ごみの回収の際に使えるものを回収し、イベントで配布する取組みを行っている。

(委員 2) 自治会によっては役員交代などによりリユースの制度があることを忘れていたりするところもあるかと思うので、改めて自治会へ説明をしてもらおうと思う。リユース品の引き渡しは抽選するほど需要があるので、周知や取り組み方の工夫をしていただきたい。

(委員6)	鳥羽市には資源物の回収場所にリユースショップがある。伊勢市にはリサイクルプラザがあるが、認知度が低いので、資源拠点ステーションにリユース品を置くコーナーを作るなど、市民が出かけるところにリユースできる仕組みを作ってはどうか。
(委員2)	リサイクルプラザでリユース品を購入する方もおり、利用者は一定数いると思う。また、リサイクルプラザでイベントがあれば、参加者がリユース品を見ていく。
(委員3)	行政が取り組むだけでなく、自治会において粗大ごみ回収を行っているのであれば、自治会の粗大ごみ回収の日を公表するなどし、自治会が粗大ごみのリユースに取り組む役割を担うことができるのではないか。
(委員2)	粗大ごみについては持ち去りの危険があるほか、譲渡にもごみを排出された方の許可がいるなど簡単にはやり取りできないところがある。
(事務局1)	粗大ごみの持ち去りに関しては、粗大ごみ回収日に行政が回収できないといったこともあり、今後の課題と考えている。
(委員2)	粗大ごみのリユースを促すような周知を検討してほしい。
(委員4)	以前はフリーマーケットが開催されていたが、最近あまり開催されなく、今の方は手間であってもアプリ等を使い、不要品を売り、お金にしようとする。地域でのバザーなど不用品を売買する機会が減っているため、そのような機会を作るのも一つではないか、現金のやり取りが難しいのであれば、不要品を持ち込んだときにクーポンを配布するなど、リユース品を出された方がお得に感じる取り組みをするとリユース品の活用が広がるのではないか。
(委員3)	安くてリユース品を購入する、手間であってもリユース品を販売する方もいれば、人が使い古したものは必要ないという人もおり、人の価値観が様々になってきている。
(委員4)	色々な価値観の人がいるので、どこかにヒットするような色々な施策をするのもよいと思う。
(委員8)	一般の方が搬入されるごみの中には新品同様のものをごみとして出される方もいる。リサイクルショップなどで売れることをもっとPRしてもよいのではないか。鉄製ののであれば、金属の取扱い業者に売れることもあるので、そのことを周知してはどうか。また、自治会で取りまとめて売却するなどの取り組みをできるのではないか。ごみにするにはもったいないものがあるので、ごみにしないように働きかける周知や取り組みをしていくとよいと思う。

●報告第3号 ごみ処理基本計画の進捗状況について

(委員2)	さんあ〜るという言葉とスリーアールという言葉が混在している。統一しないとわかりにくいのではないか。
(事務局1)	伊勢市が導入しているごみ分別アプリのさんあ〜るという言葉は商品名である。全国的には3Rは「さんあーる」、「スリーアール」と両方の呼び方がある。
(委員6)	伊勢市環境会議で出前授業などを実施しているが、出前授業を申し込む幼稚園等が固定化してきた。出前講座は効果的であり、参加した幼稚園等の園児は啓発物を受け取り、その家庭にも啓発できているが、参加しない幼稚園等へは何も啓発もできないので、不参加の園に対して園児数分の啓発物を提供できないか。
(事務局1)	不参加の幼稚園等には声掛けをするなどの対応を考えていきたい。現在は、申し込みがあるところに啓発物を提供しようと考えているが、今後検討する。
(委員3)	幼年時からの環境教育をしていくのが審議会での議論のはじまりであったので、申し込みしない幼稚園等への声掛けや周知を進めてほしい。
(委員6)	草・剪定枝の資源化について、アップサイクルとして継続いただき、今後は一般市民も参加できるような取り組みを検討いただきたい。
(事務局1)	草・剪定枝の資源化については現在実証段階であり、今後検討していく。

<審議> ●議案第1号 令和7年度 主な取り組み施策の進捗について
【資料3】

(委員1)	伊勢市では令和8年、9年にお木曳行事が実施され、観光客の増加が見込まれ、色々なお店が利用されると思う。ごみ減量の輪プロジェクトは有効な施策、特に食べきり応援店制度については、協力店舗を増やしてもらえればと思うので、頑張ってもらいたい。
(委員2)	イベントは宣伝をたくさんしていただき、たくさん来場者を増やしてもらえればよいと思う。
(委員4)	ごみ減量の輪プロジェクトは事業者が参加したいと思うことがスタートだと思うので、事業者がほしいと思うようなステッカー、前のめりになるような事業にしていってもらいたい。

●議案第2号 第3次伊勢市総合計画後期基本計画について
【資料4】

(委員9)	今後、式年遷宮も近づいてくるが、観光客の出すごみへの対策は何か考えているのか？
(事務局1)	市が観光地にごみ箱の設置といった取り組みもあるが、ごみが多量に出されるといった課題がある。ごみ箱の設置は行政が担うかどうかも含め考えていく必要がある。直面する課題としてポイ捨ての問題があり、今後対策を考えていく必要がある。
(委員9)	環境教育に関して、子どもたちからの教育は重要である。子どもたちから楽しみながら学ぶことが大切と思うので、啓発の充実を進めてもらおうと思う。
(委員3)	花火大会が開催され、若い来場者が多かったが、ごみはどれだけ出されたか。イベントでは色々なところからたくさんの方が来られる。その際のごみ対策を早く考えていくべきと思う。
(事務局2)	花火大会に関して 15 年前と比べて花火で出るごみの量は減っている。ボランティアの案内でごみの分別もされている。15 年前は花火終了後のごみ清掃でたくさんのごみが落ちていたが、今は少なくなっている。また、出店者がごみを置いていくこともあったが、今はきちんと持ち帰っている。
(事務局1)	花火大会での可燃ごみ量については、令和7年度で1,150kg、昨年度は1,480kgであり、300kgほど減っている。
(委員6)	ごみの持ち帰りも習慣化している。
(委員3)	市内の色々なところがきれいな状態である。ごみ箱がなくなって困ると思ったが、なくてもよく、ごみ箱があるからといってよいとは限らないのだと思われる。
(委員2)	伊勢市駅前には喫煙所がないため、花壇にたばこのポイ捨てがある。きれいにしているところはポイ捨てが少ない。きれいな状態を保つことが重要である。
(委員7)	ごみ減量課の取り組みで、ごみ分別アプリさんあーるの導入や、資源ステーションのパトロールの取り組みをしている。よい取り組みと考えている。回収されてくる古紙の中には不適物が含まれている。選別作業はしているが、コスト等の問題もあり、一定の選別しかできない。幼少期からの教育などにより、排出者のモラルの向上が重要であると考え。資源ステーションがきれいであれば、古紙の品質も良いが、散らかっているようなところは古紙の品質が悪い。個々の教育も大事だが、資源ステーションの環

	境整理に努めていただき、パトロールを重視、強化していただければ、ごみの分別、ごみの減量につながると思う。
(事務局 1)	月に3回、各地区の資源ステーションを回っており、適正分別の指導を兼ねてパトロールを行っている。古紙の中に不適物が混入していることがあるので、引き続き取り組んでいきたい。
(委員 3)	きれいにしている資源ステーションは表彰等して評価してはどうか。
(委員 7)	表彰等は資源ステーションに文書を貼付するなど方法があると思うので取り組んでいただくようごみ減量課と話ししていきたい。
(委員 2)	分別に関して広報いせでポイントをしばって周知するとよいと思う。これからは外国人の方が多くなるので、ごみの出し方がわかるようにしていただきたい。ごみ分別アプリに関しても周知だけでなく、ダウンロードしてもらうような取り組みを進めてほしい。
(委員 7)	ごみ分別アプリをいれずとも、資源ステーションに外国語のごみ分別案内ページにリンクするようQRコードを掲示すればよいと思う。
(委員 3)	長い目でみれば伊勢市は以前に比べてきれいになってきており、人の環境への意識も進んできていると思う。循環型社会にしていくために皆が協力、理解しながら進めることが必要であると思う。

●その他

(委員 6)	スプリングマットの回収が難しいと聞いたことがある。伊勢市では回収ができなくなるとかいう話はあるのか。
(委員 8)	伊勢広域環境組合では回収している。処分する際はすべて手作業で分解を行っている。受入れを制限するといったことは今のところない。
(委員 6)	資源拠点ステーションにおいて、絶縁されていない電池が多くある。絶縁をセロテープだけだとテープが剥がれるなど難しいと思う。洗った食品ラップをまいた上で、セロテープをまいて出すのはよいのか？
(事務局 1)	言われるようにしていただければ十分である。電池の絶縁対策として、現在、資源拠点ステーションにテープとはさみを設置している。